



## 平成18年9月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

## 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	37,847,693 万円	100.0%	104.5%(105.3%)	36,745,728 万円	101.1%(102.3%)
食 料 品	31,462,401 万円	83.1%(81.7%)	105.1%(106.2%)	30,013,113 万円	101.5%(102.7%)
農 産	4,734,977 万円	12.5%(12.1%)	108.5%(112.3%)	4,557,397 万円	105.2%(108.6%)
水 産	3,369,694 万円	8.9%( 8.8%)	104.2%(105.4%)	3,221,969 万円	100.8%(102.1%)
畜 産	3,471,973 万円	9.2%( 8.6%)	105.2%(104.5%)	3,302,878 万円	101.3%(100.7%)
惣 菜	3,015,176 万円	8.0%( 8.5%)	105.6%(107.4%)	2,846,017 万円	101.3%(103.2%)
日配食品	7,504,464 万円	19.8%(18.8%)	104.8%(105.7%)	7,168,903 万円	101.1%(101.8%)
加工食品	9,366,117 万円	24.7%(25.0%)	103.7%(104.1%)	8,915,949 万円	100.2%(101.4%)
生活関連	2,829,696 万円	7.5%( 8.0%)	99.7%(102.2%)	2,720,718 万円	97.6%(100.5%)
衣 料 品	1,574,164 万円	4.2%( 4.6%)	103.6%(101.3%)	2,152,990 万円	99.8%(100.2%)
そ の 他	1,981,432 万円	5.2%( 5.7%)	103.6%(101.8%)	1,858,907 万円	102.2%(101.0%)

## 数 値

全店総売上高	37,847,693 万円	店 舗 数	3,548 店舗
総売場面積	6,115,646.7 m <sup>2</sup>	総従業員数	173,853 人

店舗平均月商	10,667.3 万円	平均客単価	1,851.4 円
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.2 万円(6.5 万円)	平均店舗面積	1,723.7 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	20.5 万円(21.5 万円)	パート比率(前月)	75.1%( 75.4%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 全体概況

- ・ 先月と同様に天候も安定した月であったことから、売上は順調に推移した。1点単価は回復傾向にあるも、買い上げ点数が引き続き昨比割れの状況
- ・ 昨年は長引く残暑の影響で秋冬商材が不振であったが、本年は中旬までは厳しかったものの、後半は気温が低下したため、秋冬商材が好調に推移した

## 商品動向

### 農産

- ・ 引き続きの相場高により、売上高は好調に推移するも、利益の確保が難しい状況が続いている
- ・ 野菜については、サラダ用の野菜および大根、白菜、きのこ類が好調に推移した。しかしながら、松茸については不作により品不足が続いている
- ・ 果物については、ぶどうが好調に推移するも、梨や柿については品質も悪く不振となる

### 水産

- ・ 生魚については、相場高が続いており、売上は確保するも、販売点数は大幅に低下している
- ・ 旬のさんまについては、昨年よりも小ぶりで価格も高めであったことから、不振となる

### 畜産

- ・ 先月に引き続き焼肉商材が好調に推移した。また、下旬の気温低下にあわせ、牛肉のすき焼き用が好調に推移した
- ・ 牛肉については、輸入物が不振となるが、豚肉については、国産よりも安価なアメリカ産が好調に推移している

## 惣菜

- ・ カキフライや松茸・栗の炊き込みごはんなど、旬の商材を使用した商品が好調に推移している
- ・ 全般的に好調に推移しているが、特に寿司はお彼岸マーケットもあったことから大幅に伸張した

## 日配・加工食品

- ・ 日配食品では、上旬は飲料や豆腐などの夏物商材が好調に推移した。下旬は気温の低下とともに、練り製品や中華まん、鍋焼きうどんなどのホットメニューが好調に推移した
- ・ また、健康志向の高まりなどから納豆や豆腐、機能性ヨーグルト、野菜飲料などが引き続き好調に推移するも、牛乳に関しては未だ回復の兆しは見られない
- ・ 加工食品では、新米の拡販に伴い、炊き込みごはんの素を拡販したところは、売上が大幅に伸びている
- ・ また、下旬以降の気温の低下にあわせ、鍋物関連のみりんや和風調味料、シチュー、スープなどが好調に推移した
- ・ 鮮魚の相場高騰の影響からか、魚介系缶詰の売上が伸びているという報告もある

## その他

～お彼岸商戦について～

- ・ 寿司や天ぷら盛り合わせなどの簡便商品が好調に推移した
- ・ 花きについても好調に推移しており、特に22日、23日の伸びが大きい
- ・ おはぎや落雁などの売上は年々ダウン傾向にある。特におはぎは惣菜部門を中心に年間販売するところが多いことから、売上の伸びが鈍くなってきている
- ・ 酒類については堅調に推移した。日本酒については、ワンカップなどの小容量タイプが好調に推移している

～秋物商材の動向について～

- ・ 昨年は残暑が長引いたことにより全般的に不振だったが、下旬の気温の低下とともに、秋物商材がホットメニューを中心に好調であった
- ・ 旬の果物については、巨峰を中心としたぶどうが好調であったが、梨は不作であったことから、品質も悪く不振となった
- ・ 松茸および栗についても、不作による価格高騰や品質劣化により不振となる
- ・ 中華まんやおでん商材が下旬からの気温の低下とともに伸張した

～アメリカ産牛肉の取り扱いについて～

- ・ 既に販売していると回答した企業はありません。しかしながら、数社は取り扱いを検討中であり、早ければ11月中にも販売を再開したいという声もある
- ・ 取り扱いを考えていない企業が販売を開始するための条件としては、国産と同様にトレーサビリティシステムを導入することや、安全性がきちんと確認できることなどが意見としては最も多い
- ・ また、お客様の声としては、取り扱いに否定的な意見が多数を占めているという報告があり、お客様からの販売再開の要望が増えてきたら販売を検討したいという意見も多くある

以上